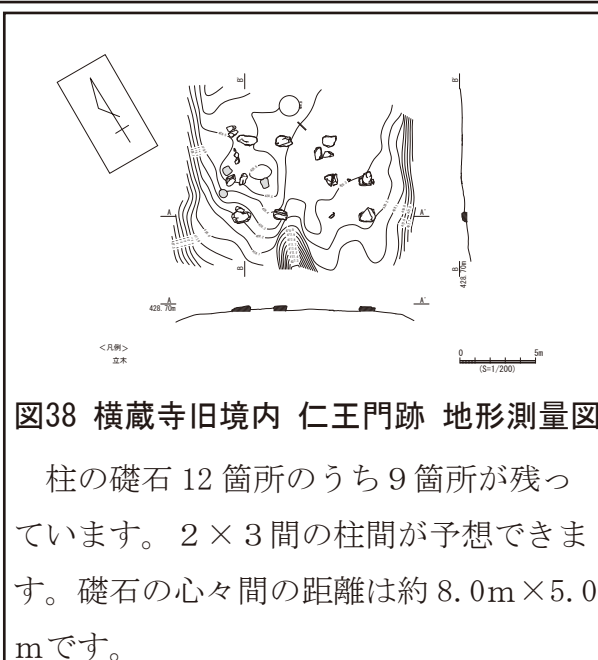
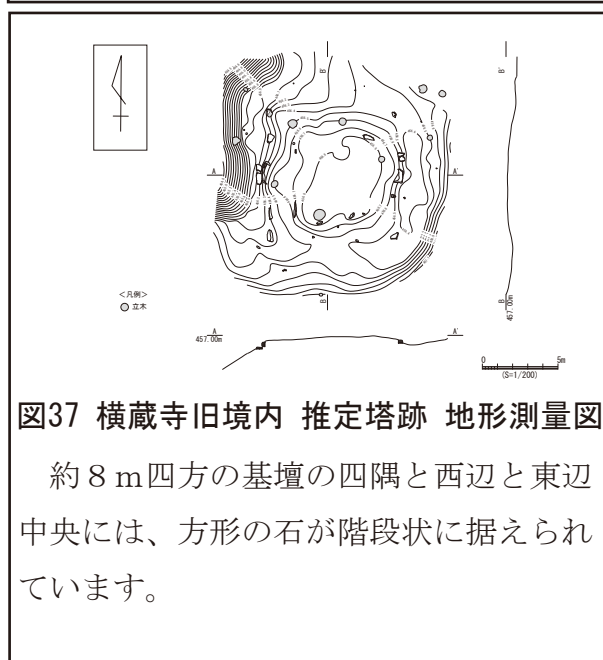
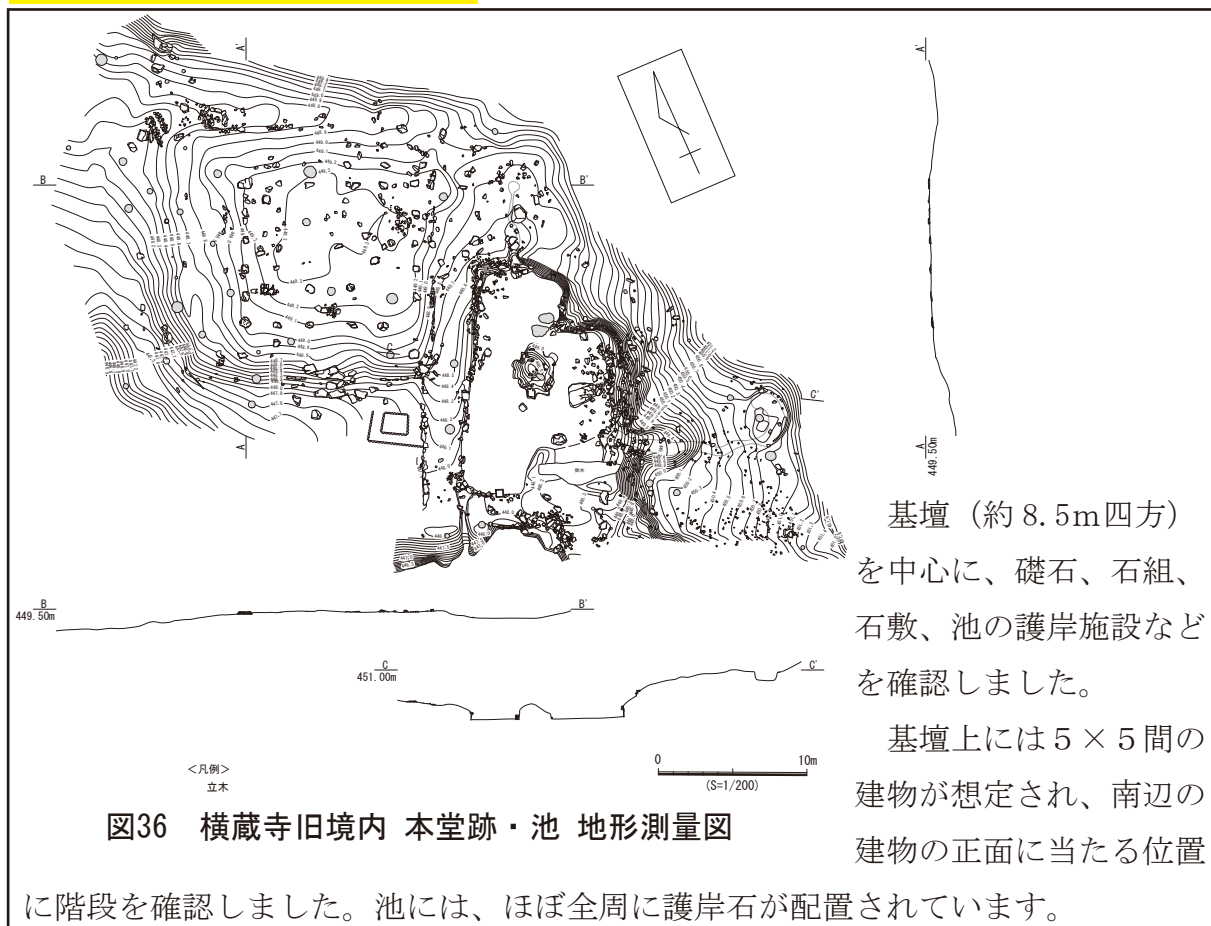


第3節 内容確認調査等または発掘調査した寺院跡

よこくら じ きゅうけいだい 横蔵寺旧境内（旧横蔵寺跡）

地形測量調査



遺物分布調査

特に本堂跡と西講堂跡とされる平坦面で多くの遺物が発見されました。時期が特定できる遺物のうち、1点は古代ですが、他は中世の遺物です。本堂跡から南西に下った谷の川沿いなどにも遺物が点在していることから、中世の段階で立体的に坊院が広がっていたことが想像されます。



図 39 横蔵寺旧境内 遺物分布状況図

てらやしき 寺屋敷遺跡

所在地：揖斐郡揖斐川町山手

平成5年度に発掘調査を行いました。遺跡のある地は「寺屋敷」「観音屋敷」と呼ばれていたようですが、寺の存在について記した文献はなく、沿革は不明です。10世紀後半に営まれ、11世紀前半に廃絶した寺院だと考えられています。約200m南東の磯谷口遺跡では、遺構は確認されていませんが、須恵器・灰釉陶器が出土していて、寺屋敷遺跡では村落内寺院の礎石建物1棟、焼礫集積遺構1基、道状遺構、尾根上の石組状遺構と小土坑を確認しました。焼礫集積遺構は、焼礫と炭化物が多数出土し、護摩壇状遺構の可能性があります。

礎石建物跡とその周辺から、灰釉陶器58点（碗・輪花碗・皿・輪花皿・段皿・折縁皿・長頸瓶・多口瓶）と鉄釘90点、螺髪^{らほつ}2点が出土しました。被熱した多数の鉄釘が出土したため、礎石建物跡は焼失した可能性があります。瓦は出土していません。



写真 39 遺跡遠景

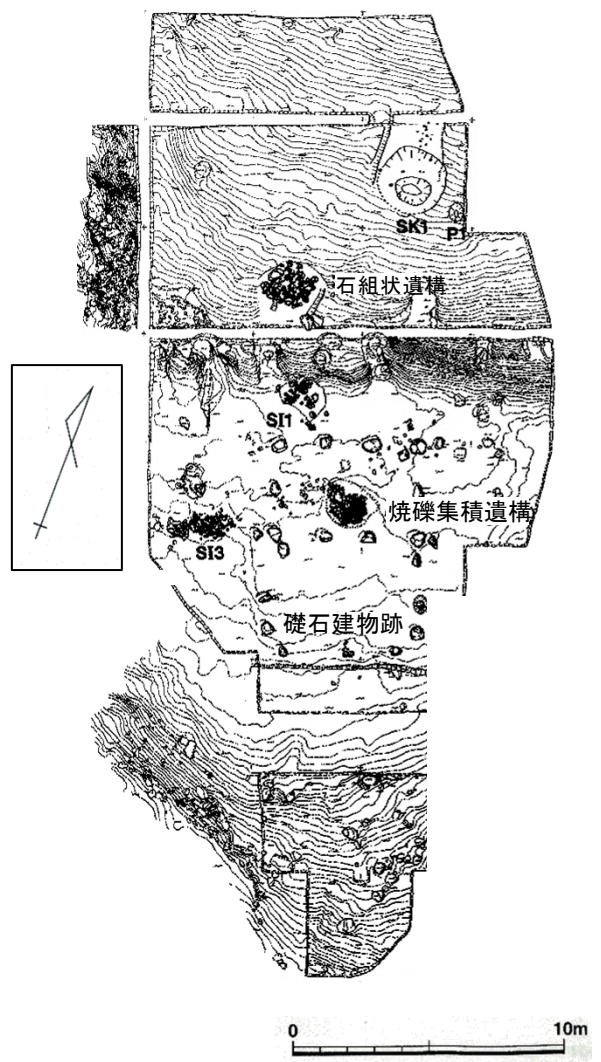


図 40 寺屋敷遺跡 第1調査面遺構

礎石建物跡を検出した地区より多くの灰釉陶器、鉄釘が出土しました。多口瓶（遺物9）は、ラッパ状に外反する主口頸部と、4つの子口頸部を持っています。胴部は、粘土巻き上げ技法によって製作されていて、胴部下半にはロクロ痕とヘラ削りの跡が残っています。



遺物8 段皿（平安時代末期）



遺物9 多口瓶（平安時代末期）

礎石建物跡の規模は5.37×7.16mです。礎石は、長さ50～60cm、厚み15～40cmほどの河原礫を使用しています。礎石の下に根石はありません。



写真40 第1次遺構面調査状況（礎石建物跡含む）



写真41 S12 検出状況（焼礫集積遺構）

焼礫集積遺構は、礎石建物跡のほぼ中央に位置しています。皿状の土坑の内部に焼化礫と炭化物が充填された状態でした。この遺構の上面は、礎石建物跡の面より高くなっています。

たか ばた 高畑遺跡

所在地：揖斐郡池田町大字片山高畑

池田山南東麓の、金地谷や井振谷によって形づくられた扇状地の縁辺部にあり、ちょうど池田山地と平野部の境に位置していることとなります。平成7年度の発掘調査で出土した遺物により、寺院跡である可能性が高いと考えられます。発掘区内では、塔、金堂、講堂などの基壇や柱穴など、寺院跡と判断できる遺構は確認できていませんが、瓦などの出土遺物から、8世紀初頭から12世紀ごろまで寺院として機能していたと考えられます。

南北方向の溝跡から古代瓦が、屋根に葺かれた状態のまま西から東に流れ込むように検出されました。時代は、単弁七葉軒丸瓦の瓦当文様から7世紀初頭であると考えられます。また、奇数の花卉から、渡来系氏族の氏寺と推定されます。築地跡の西ではほぼ完形の浄瓶^{じょうへい}が出土しました。また、奈良三彩破片が出土しています。須恵器には「笠」の墨書がある坏、硯、鉄鉢、獣足など、寺院跡と思われる遺物が出土しています。



写真 42 遺跡遠景



遺物 10 軒丸瓦（8世紀初）



遺物 11 軒平瓦（8世紀初）



写真 43 軒丸瓦出土状況



遺物 12 浄瓶（9世紀前半）



写真 44 瓦出土状況

ひ やけ 日焼遺跡

所在地：高山市上切町

平成 27・28 年度に行った発掘調査の結果から、8 世紀後葉に造営された寺院跡と考えられます。仏堂は確認できていませんが、多口瓶や鉄鉢が出土しています。掘立柱建物や灰釉陶器が確認されたことから、10 世紀前半になると、仏堂が造営され、僧房が建てられたと考えられます。さらに、須弥壇（※1）下に埋葬されていた瑞花双鳥八稜鏡ずいかそうちょうはちりょうきょうから、10 世紀後半には場所を変えて仏堂が造営され、合わせて僧房が建てられたと考えられます。なお、この仏堂は存続期間が短く、10 世紀後半には廃絶したと考えられます。

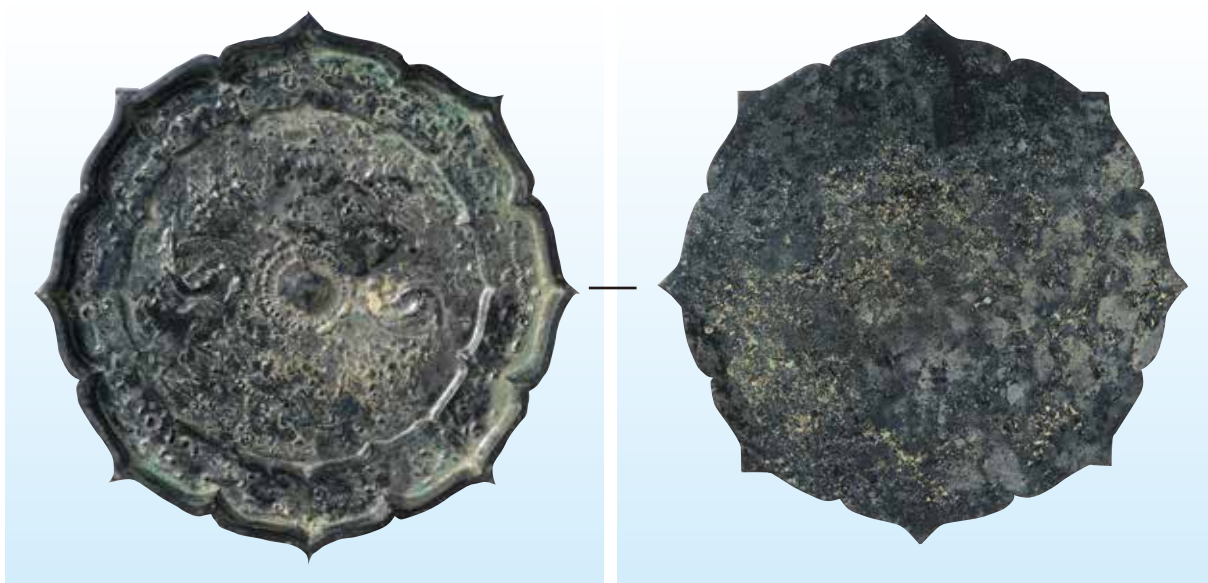
古代の竪穴建物、掘立柱建物、礎石建物、縄文時代早期の煙道付炉穴、縄文時代中期の竪穴建物などを確認しました。礎石建物の西側には白山神社が鎮座します。白山神社と礎石建物は、山寺に至る手前の山麓に神社が鎮座する山寺に多く見られる位置関係にあります。

建物礎石の中央部、須弥壇中央の土坑から八稜鏡が出土しました。この鏡は鏡面を上に向け、やや南に傾けた状態で出土しており、鏡背に楮紙が付着していることや、鏡の下から靱殻が出土したことから、鎮壇に際して土坑の底面に紙を敷き、五穀と鏡を埋めたものと考えられます。建物の礎石周辺からは螺髪らほつ（※2）や塑像そぞう（※3）片が出土しました。建物礎石西側の土坑からは「寺」、「万」、「大令」などと墨書された須恵器が出土しました。

※1 須弥壇…仏堂内で、仏像を安置する台。一段高く設けられている。

※2 螺髪…仏の、縮れて右巻きの螺旋状をしている頭髮。

※3 塑像…粘土などの変形させられる軟材を用いて形成された立体造形。



遺物 13 瑞花双鳥八稜鏡



写真 45 遺跡遠景



遺物 14 須恵器 盤 (10 世紀後半)
中心の墨書は『大令』

じゅらくじ はいじあと 寿楽寺廃寺跡

所在地：飛騨市古川町太江

飛騨国最古と推定される寺院です。国府古川盆地の北隅に位置し、宮川の支流太江川の河岸段丘上に立地しています。応永 5 (1398) 年の祈祷札には、「宮谷寺末寿楽寺」の記載があります。慶長 5 (1600) 年、飛騨国金森可重の母が戦勝祈願のため験を行い、堂宇整備を行うなど、金森家の援助によって再興し、金森家菩提寺の素玄寺末に組み入れられ曹洞宗へ転宗しました。元禄 2 (1689) 年、素玄寺 8 世古林道宣が秘仏である薬師如来を本尊として現在地に開山しました。

平成 10～12 年度の発掘調査で講堂跡・回廊跡を確認しました。平成 30 年度・令和元年度に行った内容確認調査では、推定塔跡周辺を調査し、基礎地業の可能性がある堆積土を確認しました。講堂跡・回廊跡との標高差から考えて、古代においては、基礎地業の後に基壇を設置したと推測されます。

また、香炉や銅鉢など仏具に関連する遺物とともに、^し鴟^び尾等の瓦や二次焼成を受けた土壁が出土しました。調査で出土した古代瓦の 29% が二次焼成を受けています。土壁は推定塔跡からの出土であることと、塔が燃えて寺院機能が終息する例がよくあることから、寿楽寺廃寺跡の終焉を物語っているのではないかと考えられます。



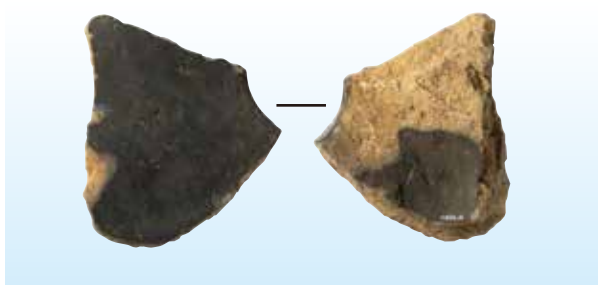
写真 46 回廊跡（西から）



写真 47 推定塔跡（北西から）



遺物 15 土壁 (7世紀後葉)
白土の部分が確認できます



遺物 16 ^{しび}鴟尾 (7世紀後葉)
鴟尾とは、瓦葺屋根の大棟の両端につけられる飾りの一種です。



遺物 17 軒丸瓦 (7世紀中葉)



遺物 18 丸瓦 (7世紀中葉)
「高」の文字が刻まれています



遺物 19 須恵器 碗 (7世紀中葉)
墨書にて「高家寺」と書かれています。



遺物 20 三彩陶器 蓋 (奈良時代)

あげはら 上原遺跡

所在地：揖斐郡揖斐川町上原

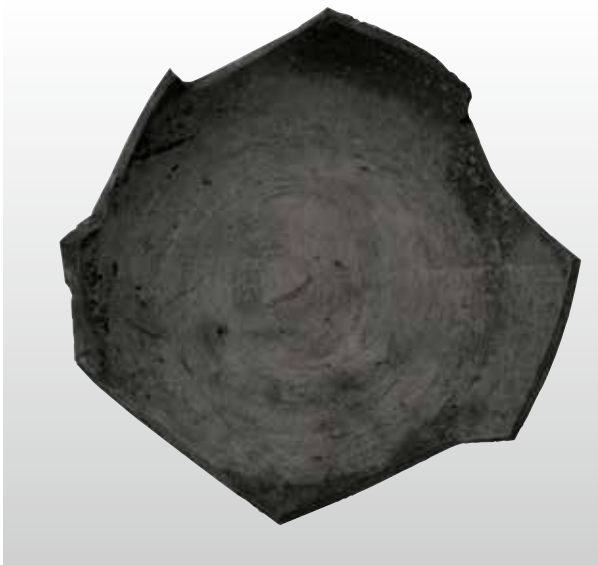
平成 2 ～ 7 年度に発掘調査を行いました。第 2 地点と第 3 地点で掘立柱建物を各 1 棟確認しました。第 2 地点の灰釉陶器の出土量は旧徳山地区の中で最も多く、10 世紀から 11 世紀における中心的な場所と考えられます。両地点の掘立柱建物はともに「宗教的な施設かその可能性が考えられる施設」であると報告しています。

それぞれの掘立柱建物は直線距離で約 300m、比高差 23m と離れています。

第 2 地点の掘立柱建物から約 50m 南で出土した灰釉陶器碗に付着する有機物は、分析により漆であることが確認されています。同じ地点で、灰釉陶器（碗・段皿・長頸瓶）のほか、墨書土器（釈読不能、灰釉陶器皿）、越州窯産青磁碗 1 点が出土しました。第 3 地点では、灰釉陶器（碗・壺・朱墨の残る転用硯）、墨書土器 1 点（「一」）が出土しています。



写真 48 遺跡遠景



遺物 21 灰釉陶器 碗（平安時代後期）

体部内面と高台周辺を除く体部外面が炭化しています。

底部外面には墨書で『一』と描かれています。



遺物 22 灰釉陶器 壺（平安時代後期）

灰釉が一部しか残存していませんが、本来は全面に刷毛塗りされていたと考えられます。



写真 49 掘立柱建物跡（第3地点）

岐阜県文化財保護センター 2000『上原遺跡Ⅱ』にて、「第1号ピット (P01) ～第20号ピット (P20) のピット群」として紹介されています。掘立柱建物を建て替えながら使用した跡である可能性を指摘しています。

てらだいら
寺平遺跡

所在地：揖斐郡揖斐川町塚

天台宗の寺院が存在したとされ、天正年間(1573～1592)に現福井県今立郡池田町土合皿尾に移され、円浄寺と称しました(宗派は真言誠照寺派)。円浄寺には塚から持参したという阿弥陀如来像が安置されており、移転前に真宗へ改宗したと推測されています。

平坦面1面において平安時代の礎石建物1棟・掘立柱建物1棟・集積遺構1基・小土坑1基・溝状遺構3条・土坑を確認しました。礎石建物は発掘区の北東部に位置し、後世に削平されて建物の北側のみ残ります。



写真 50 礎石建物跡(SS1)



写真 51 礎石建物跡(SS2)



写真 52 掘立柱建物跡

10 世紀前半ごろの遺構と考えられます。桁行 2 間（4.4m、柱間 2.3m・2.1m）
× 梁行 2 間（4 m、1 間 2 m）で、8 つの柱穴を確認しました。
柱の痕跡や底面の凹みの大きさから、柱の太さは径 13 c m 程度と考えられます。

遺物 23 灰釉陶器 折縁皿（10 世紀前半）

内外面や割れ目に漆が付着しています。
寺平遺跡で出土した他の漆が付着した灰釉陶器
と比較して、漆が厚く、ほぼ全面に塗られています。



みのこくぶんじ
美濃国分寺跡

所在地：大垣市青野町

天平 13(741)年、聖武天皇より発せられた国分寺建立の詔により創建されました。寺伝によると、天平 9 (737)年に聖武天皇の詔を拝した行基が当地で薬師如来を彫り、七堂伽藍を建立し、寺を開いたとされます。

『続日本紀』には宝亀 6 (775)年に大風による被害を受けたと記され、『日本三代実録』には、仁和 3 (887)年に火災で堂宇が全焼し、寺務を席田郡定額尼寺(現本巣市)に移したと記されています。その後再建され、12 世紀末ごろ衰退しましたが、元和元(1615)年に阿闍梨^{あじゃり}真教が寺院跡から薬師如来坐像を掘り出し再興しました。

大垣市教育委員会は、国分寺の変遷について以下のようにまとめ、岐阜県文化財保護センターもそれに従って報告書にまとめています。

I 期：国分寺前身寺院が建立される以前

II 期：国分寺前身寺院建立以降から国分寺創建（古墳末期～奈良前半）
遺構ないが遺物あり

IIIa 期：創建期 出土遺物から 755 年までには成立

IIIb・c 期：再建期（10 世紀前半～12 世紀）出土遺物から仁和 3 年焼失
後すぐに再建開始

IVa・b 期：廃絶後（鎌倉～江戸初期）伽藍の軸線とは異なる道・柵が
存在し、13 世紀には廃絶、伽藍内も含めて水田化

V 期：現在の国分寺が再興（元和元(1615)年以降）

なお、前身寺院については、存在しないという説もありますが、大垣市教育委員会による伽藍南面調査では、7 世紀末葉～8 世紀前半の遺物が出土していて、「遺物の出土傾向には、国分寺創建前のこの時期に一般的な集落とは異なった様相が認められる」ことから「前身寺院の存在を全く否定することはできない」とされています。



写真 53 寺跡遠景



遺物 24 軒平瓦（8世紀）

唐草文が描かれています。創建期の均整唐草文を持つ瓦と類似していて、国分寺創建時のものと考えられます。



遺物 25 須恵器 陶馬（8世紀後葉）

美濃須衛窯産須恵器です。胴体中心部付近で折れていて、頭部と左脚部は欠けています。棒に粘土を巻きつけて整形したと考えられます。粘土によって鞍が、沈線によって手綱が表現されています。

りゅうけいじあと
龍溪寺跡

所在地：中津川市苗木

磨崖仏下の六十六部供養碑に「生国下總国相馬郡杉下村稻葉莊左衛門」と刻まれた稻葉莊左衛門は、元文年間(1736～1741)の頃、『並松地誌』では天文年間(1532～1555)、聖観音像を笈おい(※)に納めて守護した人物で、龍溪寺に庵を定めて布教活動を行いました。その後、維新政府の確立後に尊像の由来を知った中津妙見山、日蓮宗布教師、傍島氏が尊像を修理し、御堂を建てたといひます。 ※笈…背囊やリュックサックのような機能をもった道具

平成 30 年度に内容確認調査 (TP 1 ～ 3) を実施しました。TP 1 では、土坑を 1 基確認しましたが、その上に据えられた五輪塔の時期 (15 世紀以降) と大きくかけ離れていないとすると、TP 1 周辺の平坦面一帯が中世には墓域として認識されていた可能性があります。TP1 東側の巨石の下部はオーバーハングしていて、空間の奥に当たる巨石と地面の設置部分には形の整った立方体の石を人為的にかませてあります。座禅等を行うための窟として利用していた可能性があります。

TP 2 では、検出した小土坑 2 基に炭化材が含まれていました。龍溪寺は明治維新の廃仏毀釈で焼き払われたため、炭化材はその際のものでしょうか。近世～近代の陶磁器と近代の瓦片が出土しました。陶磁器については、墓に供えた仏具類として使用されたものの可能性があります。

TP 3 では、方形に加工された花崗岩石材が規則的に並ぶ場所で調査しました。それぞれの石材に伴って礎石据付穴があり、遺物は出土しませんでした。近辺に散在する棧瓦片から、近世以降の建物跡の可能性があります。

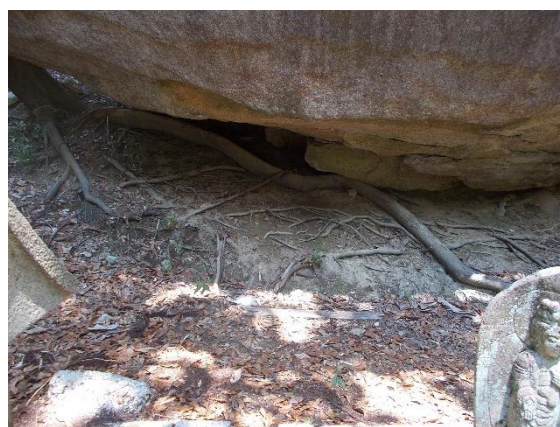


写真 54 巨石下状況 (南から)

- 1 10YR3/3 暗褐色腐植土 しまりなし
- 2 10YR2/2 黒褐色土 しまりなし 粘性なし ビニール片含む 攪乱
- 3 10YR3/2 黒褐色砂質土 しまりなし 粘性なし
- 4 10YR3/2 黒褐色土 しまりややあり 粘性なし 径1cm程度の角礫少量含む SK1埋土
- 5 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 しまりややあり 粘性なし 10YR5/4 にぶい黄褐色土ブロック1%含む SK1埋土
- 6 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまりあり 粘性なし 基盤層(花崗岩風化土)



写真 55 TP1 検出状況

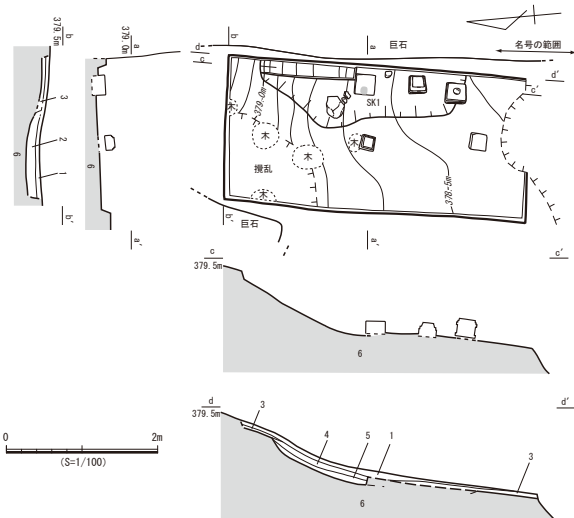


図 41 龍溪寺跡 TP1 遺構図

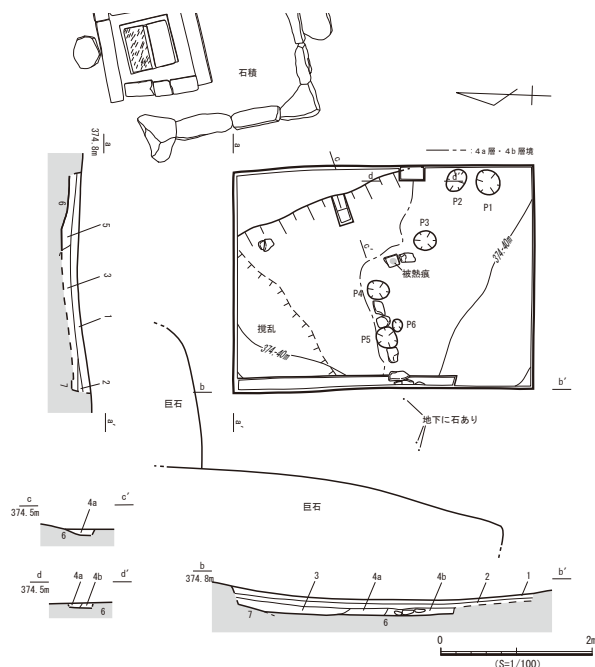


図 42 龍溪寺跡 TP2 遺構図

- 1 10YR3/2 黒褐色腐植土 しまりなし 粘性なし
- 2 10YR2/2 黒褐色砂質土 しまりなし
- 3 10YR4/2 灰黄褐色土 しまりややあり 10YR6/4 にぶい黄褐色土ブロック7%含む 攪乱埋土
- 4a 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまりややあり 粘性なし 10YR3/1 黒褐色土ブロック7%と5mm以下の礫15%含む 整地土
- 4b 10YR6/4 にぶい黄褐色土 しまりあり 粘性なし
7. 5YR6/6 黄褐色土ブロック15%と5mm以下の礫10%含む 整地土
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 しまりなし 5mm以下の礫多く含む
- 6 10YR7/4 にぶい黄褐色砂質土 しまりあり 基盤層(花崗岩風化土)
- 7 花崗岩岩盤



写真 56 TP2 検出状況

- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色腐植土 しまりなし 粘性なし
- 2 2.5Y6/8 明黄褐色土 しまりなし 粘性なし 径5mm以下の垂角礫20%含む
- 3 2.5Y4/1 黄灰色土 しまりややあり 粘性なし 径5mm以下の垂角礫30%含む 礎石据付穴埋土
- 4 10YR7/4 にぶい黄褐色砂質土 しまりあり 基盤層(花崗岩風化土)

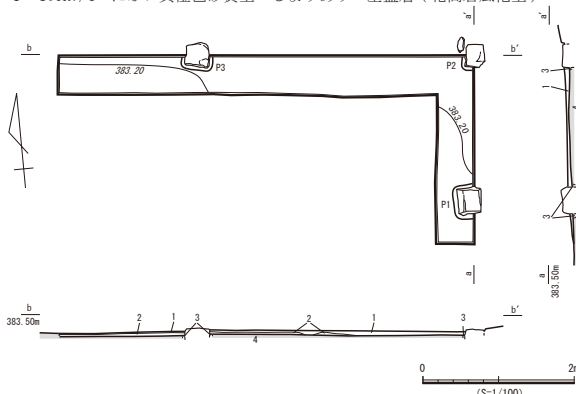


図 43 龍溪寺跡 TP3 遺構図



写真 57 TP3 検出状況

みえだじょうあと
三枝城跡

所在地：高山市上切町

平成 18・19 年度の発掘調査で、北東山麓地区にて 3 段の平坦面を確認しました。遺物、遺構から古代の山林寺院の遺跡であると考えています。最上段の平坦面①の第 2 調査面で確認された竪穴建物は、カマドを備えるため住居とみることもできますが、床下に深さ 1.74m の^{すりばち}播鉢状下部構造をもつことから、鎮壇などの特異な性格を併せもった施設である可能性もあります。その上層の第 1 調査面の礎石建物についても、信仰関連施設の性格をもつ建物であった可能性があります。

前述の竪穴建物からは、須恵器有台杯、土師器有台杯、土師器^{かめ}甕などが出土しました。下段の平坦面②からは土師質土器、平坦面③からは灰釉陶器類が出土しました。また、平坦面②③の出土遺物の中には、鉄鉢、小型の三足火舎、金属器を模倣した托など、平安時代ごろの仏具類とみられる特殊品が出土しています。

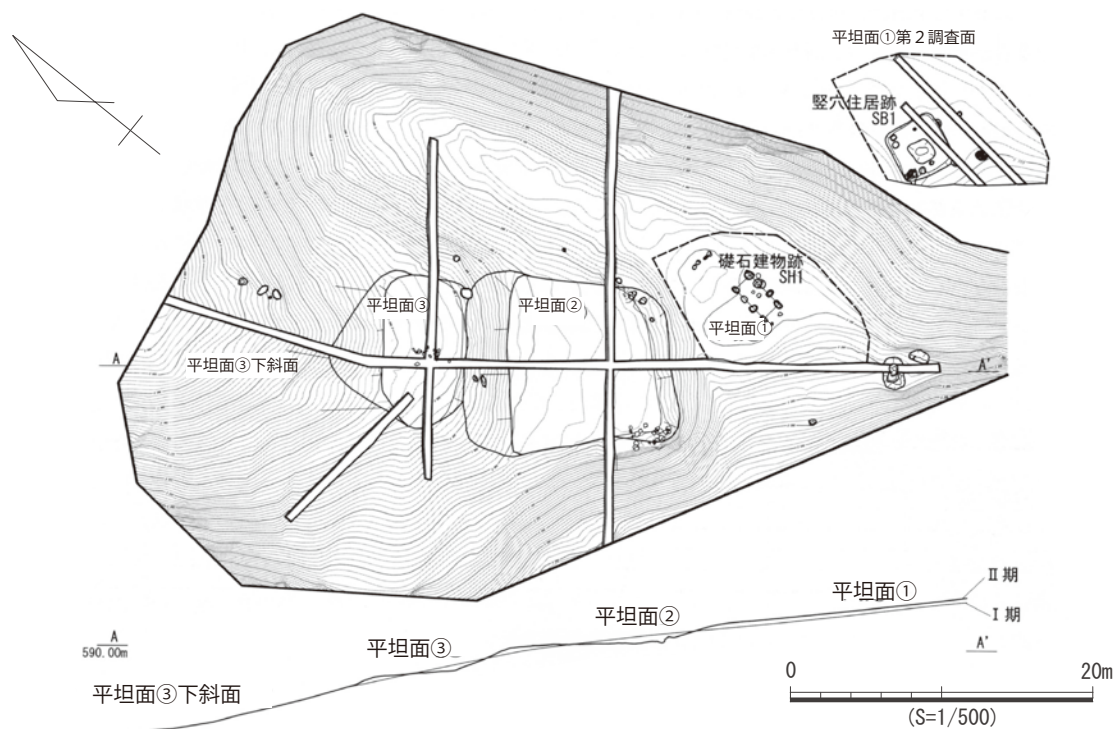
遺物などから、北東山麓地区の遺構は、平坦面①に竪穴建物が築かれ、人が住居しつつ仏教に関わる活動を行った 8 世紀後期～9 世紀初頭ごろと、竪穴建物の埋没後に平坦面①に礎石建物が造営され、平坦面②③が開削され、領域を拡大して信仰が継続された 9 世紀前半～10 世紀前半ごろの 2 つの時期に分けてとらえることができます。



写真 58 遺跡遠景



写真 59 礎石



※岐阜県文化財保護センター2011を改編

図44 三枝城跡 山林寺院跡の検出地点



写真 60 礎石建物跡 全景

平安時代前期ごろの祭祀や信仰に関わる遺構と考えられます。床面付近から43の鉄釘と雁股鋸1つが出土しました。



遺物 26 須恵器 托 (平安時代)

器を載せる台である托は、須恵器では極めて稀です。

金属器を模倣して作られたと考えられます。



遺物 27 須恵器 火舎 (平安時代)

香炉として使用されたと考えられる仏具です。本来は脚が3本である可能性が高いと推定されます。

にし が ほらはい じ あと 西ヶ洞廃寺跡

所在地：飛騨市古川町寺地西ヶ洞

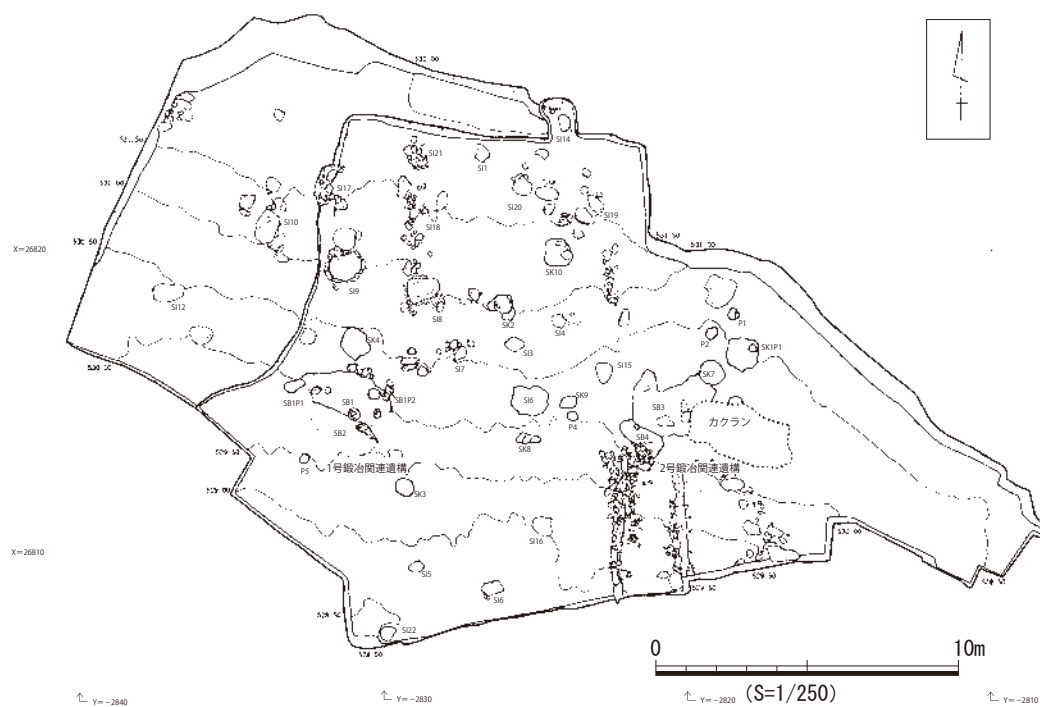
平成 14 年度に発掘調査を行いました。「十能寺」と線刻のある須恵器によって、古代の寺院名が判明しました。遺跡の周辺には同時代の集落跡・散布地が無く、寺院が修行の場所として機能していたことを示す例と考えられます。

2 基の鍛冶^{かじ}関連遺構と建物礎石を検出しました。礎石は、大型建物礎石 3 基と建物礎石 13 基を検出し、少なくとも 2 棟の礎石建物があったと考えられます。根石と思われる人頭大の礫の上に巨石を置いた大型建物礎石 3 基が寺院の中核をなす建物の礎石であると考えられ、ほかの礎石はその周囲に付属する施設と考えられます。鍛冶関連遺構は建物礎石に隣接した位置にありますが、出土遺物に明確な時期差はみられません。さらに、鍛冶関連遺構の 1 つは南面する礎石建物の正面に位置し、同時に存在したと考えにくいため、鍛冶関連遺構は寺院建立時に釘や工具などの金属製品の製作を行った遺構であり、寺院造営後に廃絶したと考えられます。

出土した灰釉陶器の年代観から、創建年代は 9 世紀末から 10 世紀前葉と考えられます。瓦の出土はなく、建物は檜皮葺だったと考えられます。建物礎石周辺で焼土や鉄釘が見つかっておらず、火災ではなく移転によって廃絶したことが分か



写真 61 遺跡遠景



※財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2006を加工

図45 西ヶ洞廃寺跡 全体図



写真 62 第1号鍛冶関連遺構

埋土には焼土や礫が含まれていました。
この遺構からは土師器、須恵器、灰釉陶器、陶磁器類、石製品、金属製品が出土しました。



写真 63 耳皿出土状況



遺物 28 灰釉陶器 耳皿（平安時代）

供献仏具と考えられます。



図 46 掲載遺跡分布図

表 4 掲載遺物一覧

内容確認調査等または発掘調査した寺院跡

番号	名称	寺跡(遺跡)名	ページ
遺物 1	青磁 碗	横蔵寺旧境内	44
遺物 2	山茶碗 碗	横蔵寺旧境内	44
遺物 3	土師器 皿	横蔵寺旧境内	44
遺物 4	灰釉陶器 碗	横蔵寺旧境内	44
遺物 5	常滑 壺	横蔵寺旧境内	44
遺物 6	青磁 端反碗	横蔵寺旧境内	44
遺物 7	土師器 皿	横蔵寺旧境内	44
遺物 8	段皿	寺屋敷遺跡	46
遺物 9	多口瓶	寺屋敷遺跡	46
遺物10	軒丸瓦	高畑遺跡	48
遺物11	軒平瓦	高畑遺跡	48
遺物12	浄瓶	高畑遺跡	48
遺物13	瑞花双鳥八稜鏡	日焼遺跡	50
遺物14	須恵器 盤	日焼遺跡	50
遺物15	土壁	寿楽寺廃寺跡	52
遺物16	鴟尾 (しび)	寿楽寺廃寺跡	52
遺物17	軒丸瓦	寿楽寺廃寺跡	52
遺物18	丸瓦	寿楽寺廃寺跡	52
遺物19	須恵器 碗 (墨書土器)	寿楽寺廃寺跡	52
遺物20	三彩陶器 蓋	寿楽寺廃寺跡	52
遺物21	灰釉陶器 碗	上原遺跡	54
遺物22	灰釉陶器 壺	上原遺跡	54
遺物23	灰釉陶器 折縁皿	寺平遺跡	56
遺物24	軒平瓦	美濃国分寺跡	58
遺物25	須恵器 陶馬	美濃国分寺跡	58
遺物26	須恵器 托	三枝城跡	62
遺物27	須恵器 火舎	三枝城跡	62
遺物28	灰釉陶器 耳皿	西ヶ洞廃寺跡	64

表5 掲載写真一覧

岐阜県の主な寺跡跡

番号	名称	寺跡(遺跡)名	ページ
写真1	踏査の様子	岐阜県古代・中世寺院跡総合調査	1
写真2	地形観察図作成	岐阜県古代・中世寺院跡総合調査	1
写真3	内容確認調査	龍溪寺跡	1
写真4	本堂跡基壇(南から)	横蔵寺旧境内	10
写真5	本堂跡(北東から)	横蔵寺旧境内	10
写真6	池(南から)	横蔵寺旧境内	10
写真7	塔跡推定地(東から)	横蔵寺旧境内	10
写真8	本堂跡(南から)	横蔵寺旧境内	11
写真9	仁王門跡(南から)	横蔵寺旧境内	11
写真10	南尾根建物跡(西から)	横蔵寺旧境内	11
写真11	推定塔跡礎石	円興寺旧境内	13
写真12	方形石積み	円興寺旧境内	13
写真13	講堂跡石積み	円興寺旧境内	13
写真14	栗原城跡(本堂の可能性)	栗原九十九坊跡	16
写真15	五輪塔・石仏	栗原九十九坊跡	16
写真16	栗原中世墓群	栗原九十九坊跡	16
写真17	参道(御嶽神社東)	栗原九十九坊跡	17
写真18	千体仏	柏尾廃寺跡	19
写真19	塔跡基壇	柏尾廃寺跡	19
写真20	礎石	柏尾廃寺跡	19
写真21	礎石	光堂寺廃寺跡	22
写真22	巨岩	光堂寺廃寺跡	22
写真23	滝と巨岩	光堂寺廃寺跡	22
写真24	礎石	竜泉寺廃寺跡	25
写真25	参道	竜泉寺廃寺跡	25
写真26	石積み	竜泉寺廃寺跡	25
写真27	本堂跡石積み	愚溪寺元屋敷跡	28
写真28	門跡 礎石	愚溪寺元屋敷跡	28
写真29	庭石	愚溪寺元屋敷跡	28
写真30	桜堂遺跡 集石(南から)	桜堂遺跡	31
写真31	笹山遺跡 集石	笹山遺跡	31
写真32	心字池	伝 心宗寺	34
写真33	座禅岩	伝 心宗寺	34
写真34	墓域集石	伝 心宗寺	34

番号	名称	寺跡(遺跡)名	ページ
写真35	本堂跡	大威徳寺跡	37
写真36	本堂北西 鎮守礎石	大威徳寺跡	37
写真37	礎石	光寿庵跡	40
写真38	推定塔跡	光寿庵跡	40

内容確認調査等または発掘調査した寺院跡

番号	名称	寺跡(遺跡)名	ページ
写真39	遺跡遠景	寺屋敷遺跡	45
写真40	第1次遺構調査状況（礎石建物跡含む）	寺屋敷遺跡	46
写真41	S12検出状況（焼礫集積遺構）	寺屋敷遺跡	46
写真42	遺跡遠景	高畑遺跡	47
写真43	軒丸瓦出土状況	高畑遺跡	48
写真44	瓦出土状況	高畑遺跡	48
写真45	遺跡遠景	日焼遺跡	50
写真46	回廊跡（西から）	寿楽寺廃寺跡	51
写真47	推定塔跡（北西から）	寿楽寺廃寺跡	51
写真48	遺跡遠景	上原遺跡	53
写真49	掘立柱建物跡（第3地点）	上原遺跡	54
写真50	礎石建物跡（SS1）	寺平遺跡	55
写真51	礎石建物跡（SS2）	寺平遺跡	55
写真52	掘立柱建物跡	寺平遺跡	56
写真53	寺跡遠景	美濃国分寺跡	58
写真54	巨石下状況（南から）	龍溪寺跡	59
写真55	TP1検出状況	龍溪寺跡	60
写真56	TP2検出状況	龍溪寺跡	60
写真57	TP3検出状況	龍溪寺跡	60
写真58	遺跡遠景	三枝城跡	61
写真59	礎石	三枝城跡	61
写真60	礎石建物跡 全景	三枝城跡	62
写真61	遺跡遠景	西ヶ洞廃寺跡	63
写真62	第1号鍛冶関連遺構	西ヶ洞廃寺跡	64
写真63	耳皿出土状況	西ヶ洞廃寺跡	64

参考文献

- 揖斐川町 1971『揖斐川町史』通史編
- 揖斐郡教育會 1924『揖斐郡志』
- 上原真人 2002「古代の平地寺院と山林寺院」『佛教芸術』第 265 号、毎日新聞社
- 卯月会 2007『萩原郷土誌 水穴』
- 大垣市 1968『新修大垣市史』通史編一
- 大垣市 1977『大垣市史』青墓編
- 大垣市 2013『大垣市史』通史編 自然・原理～近世
- 大垣市教育委員会 2005a『史跡美濃国分寺跡』
- 大垣市教育委員会 2005b『美濃国分寺跡—国分寺遺跡（伽藍南面隣接地の調査）—』
- 大下永 2018「飛驒における中世山寺の空間構造について」『斐太紀』平成 30 年秋季号、飛驒学の会
- 片山惣次郎監修・西尾錦造編 2002『並松地誌』、上・下並松区
- 岐阜県 1969『岐阜県史』通史編 中世
- 岐阜県 1971『岐阜県史』通史編 古代
- 岐阜県 1972『岐阜県史』通史編 近世下
- 岐阜県 2001『わかりやすい岐阜県史』
- 岐阜県 2022『2022 県勢要覧』
- 岐阜県教育委員会 1998『岐阜県文化財図録』
- 岐阜県文化史調査研究会 1999『飛驒美濃合併 120 周年記念事業 ひだみの文化の系譜』、岐阜県
- 岐阜県文化財保護センター2000『南高野古墳・二ノ井遺跡・市場遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第 51 集
- 岐阜県文化財保護センター2011『三枝城跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第 116 集
- 岐阜県文化財保護センター2020『栗原九十九坊跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第 147 集
- 岐阜県文化財保護センター2021『国分寺遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第 150 集
- 岐阜県文化財保護センター2021『上切寺尾古墳群・日焼遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第 154 集
- 岐阜県文化財保護センター2023『岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書』岐阜県文化財保護センター調査報告書第 162 集
- 岐阜県養老郡養老町 1978『養老町史』通史編上巻
- 岐阜市 1980『岐阜市史』通史編原始・古代・中世
- 久保智康 2001「古代山林寺院の空間構成」『古代』第 110 号、早稲田大学考古学会
- 下呂市教育委員会 2007『岐阜県指定史跡鳳慈尾山大威徳寺跡平成 15～18 年度範囲確認調査報告書』
- 下呂市教育委員会 2011『岐阜県指定史跡鳳慈尾山大威徳寺跡平成 19 年度～20 年度範囲確認調査報告書』
- 下呂市教育委員会 2018『下呂市遺跡詳細分布調査報告書』
- 国府町教育委員会 1972『国府町の文化財』
- 国府町教育委員会 2005『石橋廃寺調査報告書』

国府町史刊行委員会 2007『国府町史』考古・指定文化財編
 国府町史刊行委員会 2008『国府町史』通史編Ⅰ・史料編Ⅰ
 小阪大 2021「美濃禅定道 白山本迹曼荼羅」『御鎮座千三百年記念洲原神社』、洲原神社
 財団法人岐阜県文化財保護センター1998『上原遺跡Ⅰ』第36集
 財団法人岐阜県文化財保護センター2000『上原遺跡Ⅱ』第54集
 財団法人岐阜県文化財保護センター2000『高畑遺跡』第56集
 財団法人岐阜県文化財保護センター2001『寺屋敷遺跡・磯谷口遺跡』第35集
 財団法人岐阜県文化財保護センター2002『太江遺跡・寿楽寺廃寺跡』第74集
 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2003『寺平遺跡』第83集
 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005『太江遺跡Ⅱ』第94集
 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2006『西ヶ洞廃寺跡・中野山越遺跡・中野大洞平遺跡・大洞平5号古墳』第98集
 佐伯哲也 2018『飛騨中世城郭図面集』、桂書房
 澤田天瑞 1995「愚溪寺庭園（竜安寺庭園の原点）」『愚溪寺庭園』、中部庭園同好会
 篠田壽夫 2015「岐阜市金華地区の寺院配置考」『岐阜史学』第104号、岐阜史学会
 島方洸一 2012『地図でみる東日本の古代 律令制下の陸海交通・条里・史跡』、株式会社平凡社
 白山本宮神社史編纂委員会 2010『増訂図説白山信仰』、白山比咩神社
 須田勉「ここまでわかってきた国分寺」2001『～千年の時流れて～遠江国分寺発掘50周年記念シンポジウム資料集』磐田市・磐田市教育委員会
 高山市教育委員会 2016『高山市史』先史時代から古代編（下）
 谷汲村 1977『谷汲村史』
 垂井町史編さん委員会 1969『垂井町史』通史編
 垂井町 1996『新修垂井町史』通史編
 垂井町 1996『垂井町遺跡詳細分布調査報告書（Ⅰ）』
 特定非営利活動法人わいわいハウス金華・岐阜市歴史博物館 2009『ふるさと岐阜・魅力発見大作戦岐阜町金華の誇り』
 徳山村史編集委員会 1973『徳山村史』徳山村
 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所ホームページ「古代寺院遺跡データベース」
 (<http://mokuren.nabunken.go.jp/NCPstjiin/NCPstrJ.htm>)
 富永樹之 2006「東国の「村落内寺院」の諸問題―千葉県以外を主体として―」『在地社会と仏教』独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所編
 中津川市 1988『中津川市史』中巻Ⅱ
 八賀晋 1992「飛騨の古墳と寺々」『特別展 飛騨のあけぼの』、岐阜県博物館
 八賀晋 2001「飛騨国伽藍」について『美濃・飛騨の古墳とその社会』、同成社
 飛騨市教育委員会 2019『飛騨市遺跡詳細分布調査報告―古川町・神岡町―』
 飛騨市総務部古川町史編纂室編 2010『古川町歴史探訪』
 藤岡英礼 2012a「空間構造」『季刊考古学』第121号、(株)雄山閣

藤岡英礼 2012b 「山寺の変遷」『季刊考古学』第 121 号、(株)雄山閣

古川町教育委員会 1998 『岐阜県吉城郡古川町 杉崎廃寺跡発掘調査報告書』古川町埋蔵文化財調査報告第 5 集

松尾剛次 1995 『勧請と破戒の中世史—中世仏教の実相—』、古川弘文館

瑞浪市 1974 『瑞浪市史』歴史編

瑞浪市教育委員会 2014 『笹山遺跡』瑞浪市埋蔵文化財調査報告書 7

瑞浪市陶磁資料館 2011 『瑞浪市歴史資料集』第一集

瑞浪市陶磁資料館 2012 『特別展櫻堂薬師 1200 年展』

御嵩町史編さん室 1992 『御嵩町史』通史編上

御嵩町史編さん室 1990 『御嵩町史』通史編下

道下淳他 1987 『岐阜県百寺』郷土出版社

三宅唯美 2011 「東濃地方の律宗五輪塔」『瑞浪市歴史資料集』第 1 集、瑞浪市陶磁資料館

安福彦七 1976 『栗原山九十九坊 象鼻山別所寺の歴史を尋ねて』

養老町教育委員会 2007 『養老町遺跡詳細分布調査報告書』養老町埋蔵文化財調査報告書第 4 集

横山住雄 2015 「臨済宗五山派・美濃如意輪寺と天福寺」『論叢』第 10 号 花園大学国際禅学研究所

吉城郡国府村 1928 『国府村紀要』

吉城郡国府村役場 1959 『国府村史』全



寺院調査で出会った風景です。



岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書（令和5年3月刊行）は、インターネット上「全国遺跡報告総覧」にて閲覧できます。

岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書に掲載しました1,918寺院から、推し127寺について「岐阜県の古刹・古社と古代・中世寺院跡ガイドブック」を作成し、岐阜県文化財保護センターホームページに掲載しています。下記 URL からご覧ください。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/355039.html>